

# 「楽しく“防災”を考えてみよう！」

BOSAI 5

内山恵子（和光市）、金井祐子（さいたま市）、  
新谷恵子（さいたま市）、志田澄子（深谷市）、山崎いつ子（草加市）

## 1. 発表の目的

昨年は、6月に大阪府北部地震6月末から7月に西日本豪雨災害、7月～8月は、記録的な猛暑、9月6日には北海道胆振東部地震、台風は7月に「異例の西進」を辿った台風12号、19号、20号、21号、24号は台風・豪雨による激甚災害の指定が行われた。

2018年の今年の漢字は「災」。1月に入っても熊本で震度6弱、3月にも北海道胆振地方で震度6弱の地震が発生し、危機意識は高まっていると思われる。

被災した地域の防災意識は、確実に高まる。しかし、それ以外の人達の意識はあまり高まっていない。阪神淡路大震災の被災地でさえも24年が経過し、記憶の風化が否めない現状がある。

そこで、防災を「自分事」と捉え、誰でも気軽に参加できる防災訓練を考えてみることにした。

## 2. 調査研究の背景

行政が行う「地域防災訓練」や、自治会の行う「防災訓練」は、若い世代の参加者が少なく、参加する人は、いつも同じ顔ぶればかり。そこで、このような疑問を抱いた。この人たちは、今後も同じメンバーだけで活動を続けるつもりだろうか？これは、危機的状況だ。

そこで、「防災訓練」に参加し、その実情を調査することにした。

## 3. 「防災訓練」の調査

自分たちの地域で行われる「防災訓練」に各自参加し、その内容や、参加者の階層などの調査を行った。

調査した「防災訓練」は以下の通りである。

- ①2018年10月、11月、12月に自治会が行った防災訓練
- ②2018年10月に自治体が行った防災イベント
- ③2018年11月、2019年1月に市民団体が開催した防災イベント

実態把握してみた結果、見えてきたことは以下の通りである。

草加市旭町の「防災訓練」は、炊出しに煙体験。まさに王道の防災訓練だった。参加者の年齢層が少し高めに思えた。

和光市にあるマンションの「防災訓練」は、親子連れの参加者が多かった。これまでの訓練は、役員に当たった人だけが参加しており、さらに自治会と管理組合が其々に訓練を行っていた。新しく着任した自治会長がそのやり方に疑問を感じ、管理組合との共同開催を提案したそう。周知の方法も工夫し、家族で参加できる訓練を企画した。そ

の結果、全世帯350のうち120世帯が参加するという、これまででは考えられない訓練になった。

周知の方法にも違いがあった。「防災訓練」を知らせるポスターを比較してみた。王道の草加市旭町のもの、和光市のマンションの「防災訓練」では明らかに違いがある。

## 4. 調査結果の分析・考察

調査の結果、体験型の訓練は、親子連れの参加が多いこともわかった。従来型である「王道」の防災訓練には、子育て世代の人達が参加していない傾向にあり、子育て世代の「防災訓練」に対する意識調査が必要と考えた。そこで、アンケートを作成し、意識調査を実施することにした。

## 5. 「防災訓練」意識調査

アンケートは、質問内容を絞り、短時間で回答できる、以下のような簡単な内容とした。

「参加したくなる防災訓練に関するアンケート」

- ①「防災訓練」に参加したことがありますか？
- ②主催・内容は？参加した感想は？
- ③参加しなかった理由は？
- ④参加したい訓練内容は？
- ⑤居住地、性別、年代

実施は、2018年10月から12月にかけて行った。

また対象は、

- ・グループメンバーの居住する地域の人
- ・子育て支援センター利用者
- ・女性リーダー育成講座受講生
- ・With You さいたま職員

等に行い、101枚のアンケートを回収し、アンケートを見て調査・考察した。

回答数 101人(うち男性5人)

①防災訓練に参加したことがある人

	YES(人)	NO(人)
20代	0	1
30代	12	13
40代	10	17
50代	21	8
60代	12	5
70代	1	1
	56人	45人

56人で約54% ない人は45人で約46%

なお、男女の比については、回答者が圧倒的に女性が多かったため比較ができなかった。

和光市の子育て支援センターを利用した人の結果だけ見

ると、参加したことがある人は約 37%、ない人が約 63% だった。

## ②参加したことがない人の理由

この理由の1位は、意外にも「防災訓練の開催を知らなかった」だった。

ここでは、行政からの情報は、ホームページ、広報誌、広報掲示板等で確認できるが、それが目に留まっていないという新たな問題点も出てきた。

## ③参加したいと思う「防災訓練」は？

子どもと一緒に参加できる「訓練」や消防車、起震車に乗れる「訓練」、子どもと一緒に学べる「訓練」を希望する意見が多く寄せられた。

### 【アンケート結果から出た意見】

- ・子どもと一緒に参加できる。
- ・消防車両に乗車できる。
- ・参加時間が短い
- ・防災キャンプ
- ・避難経路の確認
- ・起震車などの実体験で体感する。
- ・避難所体験
- ・炊き出し体験。試食などができる。
- ・参加者プレゼントがある。
- ・防災グッズを安く購入できる。
- ・赤ちゃん連れの避難方法などを学びたい。

上記のような意見が多く寄せられた。

## 6. 「防災訓練」意識調査の結論

アンケートを行った結果、子育て世代(30~40代)の参加が少なく、事前の周知と複数日程(回数)の実施がポイントだ。

子育て世代が参加しやすい防災イベントを求めている人が多いことがわかった。その結果、私たちの課題学習のテーマにもある「楽しく防災」が今、求められており、それを実現するためには、どのような防災イベントがあるのか事例を紹介することにした。

## 7. 防災イベントの企画紹介

### 防災カードゲーム「ナマズの学校」

NPO法人プラスアーツで販売している防災カードゲーム「ナマズの学校」。一人でもできて、一対一から一対多まで柔軟性があり、大人から子供まで楽しめる。

### 防災まちがいさがし「きけんはっけん！」

NPO法人プラスアーツで販売している防災まちがいさがしゲーム。幼稚園児を対象としたゲーム。

### 段ボールでトイレを作る

身近にある段ボールでトイレを作る企画。ドラックストア等で積み上げてある段ボール箱をもらい、トイレや椅子を作る。ガムテープやカッターで段ボールを切り、穴をあけ、人が座れるように隙間に段ボールを詰めて補強し、災

害用の簡易トイレをかぶせて使用できる。刃物を使うので大人と一緒に行うと良い。完成したトイレを、きれいな包装紙でラッピングして可愛いトイレにすることもできる。

### 防災クイズ「マルボさんを探せ！」

和光BOSAI部オリジナル企画の防災クイズ「マルボさんを探せ！」。イベント会場に潜伏しているマルボさんを見つける。マルボさんからクイズをもらい、BOSAI部のブースに来たらクイズの答えを言って、正解したら景品がもらえる。クイズの答えは、和光市「防災ガイド」に書いてあるので、必ず防災ガイドを読ませることが出来、まさに一石二鳥の企画。

### 制作企画「デコヘルを作ろう！」

頭を守る大切なヘルメットをオリジナルにデコろう！A0イスブレイクで、じゃんけんで負けたら、たたかれる前にヘルメットで頭を守り、ヘルメットの大切さを学ぶ。マーカーペン、シール等を使い、自分だけのヘルメットを作る。ヘルメットは、ホームセンターで900円くらいで手に入る。中には人工芝や動物のフィギアをデコる人もいる。

### みんなで楽しくご飯を食べよう「非常食食堂」

自治体で保管しているアルファ米を使い、米を炊く。自宅にあるものを持ち寄り、豚汁を作る。災害発生時に家庭の孤立を防ぎ、情報交換の場にすることで共助の輪が広がる。

### 家庭でおいしく「BOSAIキッチン」

ローリングストック法やポリ袋での調理法を学ぶこともできる。使用するポリ袋の種類や大きさも、あらかじめ検証できる。

## 8. まとめ

以上、紹介した事例から対象、場所、予算等から取捨選択し、防災の啓発活動を計画してみよう。

啓発ということでは、早速アンケート結果を活用していただいた。和光市の南子育て支援センターで、防災に関する「防災コーナー」を作り、防災に関する情報を展示してくれた。

私たちの調査に基づいた提案は以上だが、本講座終了後もBOSAI5は、其々の地域で活動をしていく。その活動は、これからも、ゆるく、長く、つながっていく。あまり気負わず、好奇心旺盛に！